

テーマ：自然

とうきょう すくわくプログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム ってなに?

「とうきょう すくわくプログラム」は、幼稚園や保育所において、子供たちが好奇心や興味を持って、わくわくしながら遊び、学べるよう応援する取り組みです。取り組みを通じて、子供たちの自己肯定感や思いやりといった豊かな心の育ちをサポートしていきます。

すべての乳幼児の
伸びる・育つ
×
好奇心・探究心
を応援する幼保共通のプログラム

はちからご覧いただけます。

とうきょう すくわくプログラムは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策センター（CEDEP）との協定の下、東京都の「とうきょう すくわくプログラム推進事業」として策定したものです。

【テーマの設定】

お散歩が大好きな子どもたち。言葉にできなくても、散歩先の自然の中で新しい発見に目をキラキラさせたり、「なんで？」と疑問を感じたり。東村山市とその周辺の自然に触れ合う中で、季節ごとの自然の変化や新しい植物、虫との出会いを通じ、自然の面白さや不思議を探究したいと思い、テーマに選びました。

【環境をデザインする】

- ①近くの公園だけでなく、様々な植物や虫、自然の変化に気づけるよう、電車に乗って大きな公園にも出かける。迷子防止、衣服の汚れ防止のため園外スモックを用意し、汚れを気にせず安全にのびのび探索できるようにする
- ②出会った自然物や虫を採取して園内で育て、その成長を見つめる
- ③興味を持った单元ごとの絵本や図鑑を用意し、興味が探究につながるようきっかけ作りを行う
- ④こどもたちの「したい！」「行きたい！」「やってみたい！」の気持ちを大切に、発語や瞳のきらめき、不思議との出会いを見逃さない。好奇心を大切に、様々な経験の機会を持てるよう地域の協力を得ながら活動を展開していく
- ⑤自然物を使って制作を楽しめるよう、工作カートを用意し、様々な素材や文房具などを使用しながら楽しめるよう準備する

【活動スケジュール】 2024年8月～2025年2月

子どもたちの好奇心のままに、「やりたい」「やってみたい」「楽しそう」という声や思いを汲み取りながら月1～3回実施しました。

5～7名単位のクラス活動をメインに、時には一緒にお出かけしたりする時間も設け、流動的かつ柔軟さを大切に活動を楽しみました。

やりたい時がすくわくデー♪ ゆるりとしたクレイドルならではの「すくわくプロジェクト」になりました！



【活動内容】

◎バッタの捕獲、飼育、天国へお見送り

→虫探しにハマる子どもたち。しばらくブームになりました。

◎航空公園、小平中央公園、狭山公園へ。電車に乗ってお散歩バッグ持って探索活動へ行きました

→葉っぱの色の変化、公園ごとに落ちている実が違うことの発見。

拾った葉っぱでゆらゆらモビールを作ったり、制作も楽しみました。

◎サツマイモ掘り、ミカン狩り、大根&かぶの収穫体験

→農家さんとお友だちに♡自分で採ったお野菜、果物のおいしさに目覚める子どもたち。

◎公園で見つけたキノコがきっかけでシイタケの栽培にもチャレンジ！

→毎日お水をあげて、収穫もして、給食で美味しくいただきました。

◎サツマイモ掘りでいただいたサツマイモのつるでクリスマスリース作り。

お正月にはお飾りに作り直して。。保育園の玄関を飾ってくれました。

→一つの活動が次の活動へ発展する面白さ

◎散歩で拾ってきたどんぐりから発芽するらしい！やってみよう！

→無事、発芽して一本大きく成長しました。1パーセントの奇跡にみんなで感動★

◎秋の自然集め

→たくさんの植物の名前を調べました&たくさん覚えました



←秋の自然探し。
お気に入りは「さるのこしかけ」



「自然」というテーマから子どもたちの「やりたい！」を拾い集めたらこんなにたくさん。子どもたちの好奇心ってすばらしい♪

子どもたちが自由に使える工作カート
いろんな素材を詰め込みました →

【活動の記録】



いろいろな色の葉っぱ、不思議だね。
電車に乗って大きな公園にも行ったよ♪



みかん狩り。
引っ張らないでひねって
とるんだよ。もぎり取り
方も学びました♡



公園で大きなきのこと発見！
きのを育ててみよう。毎日お水をあ
げて、収穫して、給食で食べたんだ。



ぱったとの出会い
&初めての飼育。
短い間だったけど
出会ってくれて
ありがとう！

サツマイモ掘り。自分で
取って自分で作ったサツマ
イモごはん美味しかった
よ！

取ったツルでリースも作ったよ(^^)v

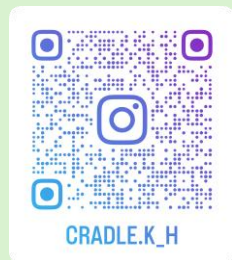
近所の農家さんとはもう
なかよし！カブ取り体験、
させてもらったよ。



天国にいったバツタのじぞうくん。
お別れの経験もしました。



活動内容はインスタ
でも公開しています



【振り返り】

「自然」というテーマを立てたことで、そこまで興味を示していなかった植物や、季節の変化に伴う自然現象(霜柱・氷)、生き物などを、子どもたちと一緒に発見・観察することで、興味関心が高まった

→保育者がテーマを意識することで、子どもたちの心の動きや「やってみたい」に気づくようになったことがとてもよかった！



実際に収穫したものを調理するなど、いろいろな経験ができてよかった。ただ、日々の業務の中で活動の記録を残すことは少し大変だった。

→確かに「記録を残す」という作業は業務増となっている。しかし後で記録を振り返ったときに「あ！これ楽しかったね」「こんなことができるようになったね」といった成長の見える化ができるメリットもあるので、必要な記録が取れるよう作業効率を検討していきたい。

子どもたちが見つけたバッタをお部屋で飼育。毎朝バッタの様子を見たり、お部屋の中をお散歩させたりと、今まで以上に生き物への興味関心が高まり、良い経験となった。

→対象物の発見～捕獲～飼育（お世話）～調べる（食べ物は何？どんな場所が好き？～命の終わり、までを経験する良い機会となった。



自然に触れて遊ぶ中で四季を感じることができた。同時に心の動きや成長を感じることができた。乳児であっても子どもたちに「できること」「感じられること」がたくさんあるのだと思った。

→小さいから無理、と決めてしまうのではなく、「やってみたい」という気持ちを読み取りながら、どうしたら体験できるか？経験できるかを考える機会となった

最初子どもたちの興味を引き出す導入に苦慮したが、すくわくを行っているうちに子どもたちの方から「これやってみたい」という声が多く上がるようになってきた。

子どもたちと一緒に草花や虫の名前をたくさん知ることができた。

→保育者の設定した保育だけでなく、子どもたちの「やってみたい」が主活動になっていくことがすくわくの目的のひとつ。設定保育とは異なる新しい取り組みができた。



大げさなことをしなくても、日常の保育の中で「自然」を意識することで無理なく進められた

→最初のうち、保育者がどうやって進めていけばよいか？と心配が先だっていたが、テーマを意識するだけで、自由な発見や気づきが生まれていたもので、無理なくできた、と感じたのではないかと思う。

